

図画工作科における評価のポイント

理論編

- 1 図画工作科の目標
- 2 図画工作科で育成する資質・能力
- 3 評価の観点

実践編

低学年 A表現 (2)

- 1 授業改善に向けて
- 2 指導計画・評価計画の作成
- 3 実践を通して明らかになったこと

資料編

- 1 指導計画・評価計画・指導案例
- 2 ワークシート
- 3 その他

理論編

1 図画工作科の教科目標

表現及び鑑賞の活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにするとともに
造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う。

表現及び鑑賞の活動を通して 図画工作科の学習活動は、大きく2つの領域で構成されています。

表現

感じたことや想像したことなどを、
造形的に豊かに表す活動

かいたり、つくったりする力

鑑賞

身近なものや作品などからよさや
美しさを感じ取り、見方を深める活動

見たり、感じたりする力

一体的に働き補い合って高まる

表現と鑑賞の活動を関連させながら指導を進めることが大切です。

つくりだす喜びを味わう ようにするとともに 造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる

図画工作科は、
児童が、自らも
のをつくりだす
楽しさを味わう
ようにすること
を重視していま
す。

造形的な
創造活動

対象への働きかけ

自分らしい思い

形や色などに
具現する

「造形的な創造活動の基礎的な能力」とは、
児童がかいたりつくったりする際に、主に働く
造形への関心や意欲、発想や構想の能力、創造
的な技能、鑑賞の能力などの図画工作科で育成
する資質・能力のことです。

創造的な想像力

デザインの能力

造形感覚や創造的な技能

造形的な創造活動によってつくりだすことを味わうことは、
自己実現的な喜びです。

生きる力となります。

「造形的な創造活動の基礎的な能力」
を、児童が自らはぐんでいくよう
にするために、一人一人のよさを生
かし、思いのままにかいたりつくっ
たりすることが大切です。

豊かな情操を養う

情操とは、よさや美しさ、優しさなどの価値に向かう傾向をもつ心情のことでありもっとも人間らしい意思や感情のことであると言われています。

図画工作科では、心と体、活動が一つになり、造形的な感覚や創造的な技能、鑑賞の能力などを総合的に働かせ、形や色のよさや美しさなどをつくりだす意思を含む創造的で豊かな感情を養うことを目指すものです。したがって、児童の感情と意思の調和的な発達を図るとともに、芸術を創造し、それらを愛好する豊かな心を育てることにつながります。

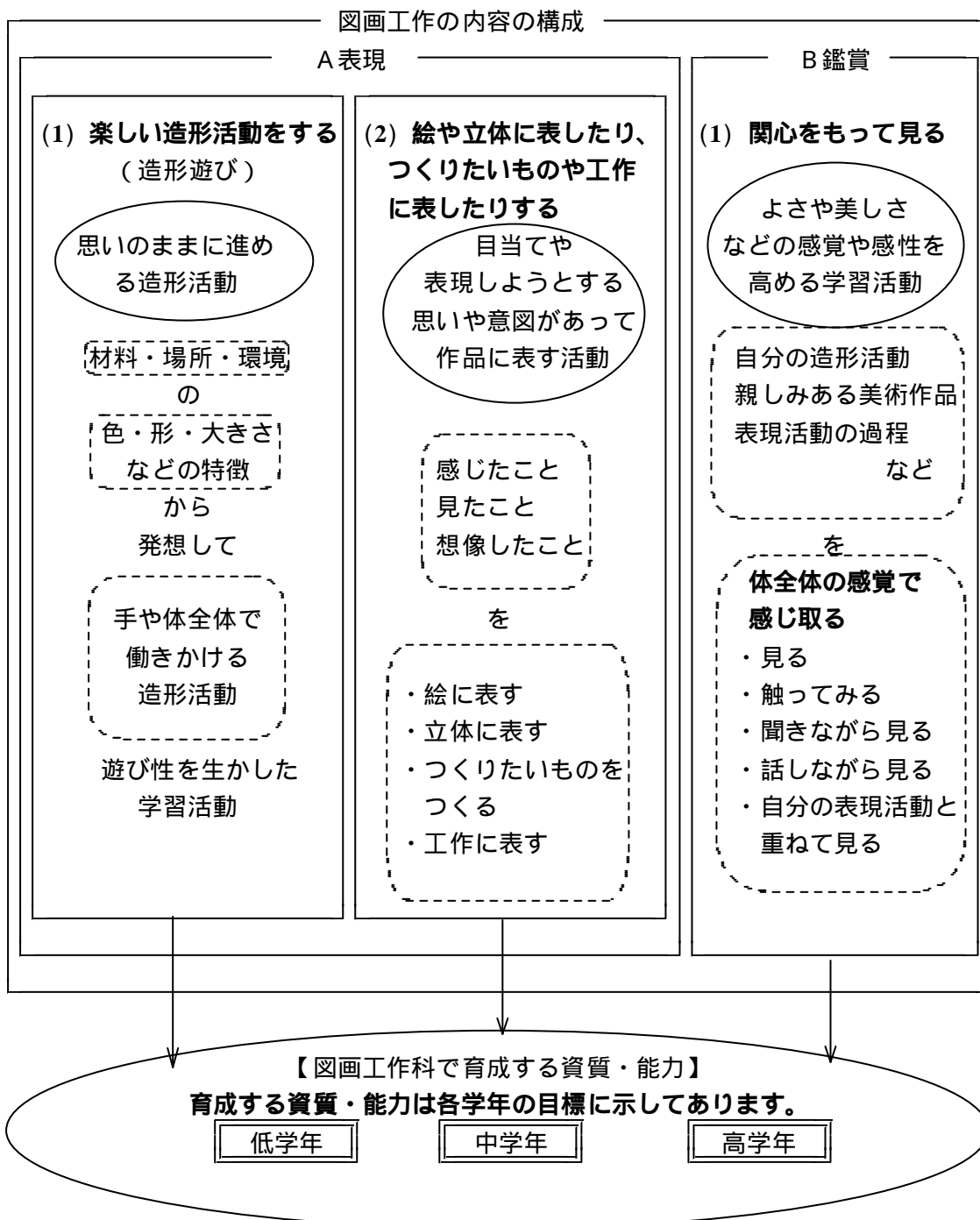
2 図画工作科で育成する資質・能力

【図画工作科の内容】

図画工作科の構成は「A表現」と「B鑑賞」に分かれます。

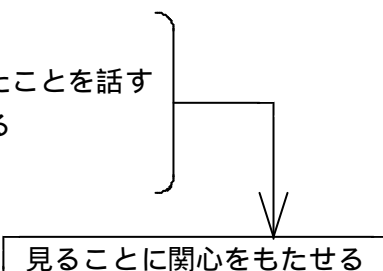
さらに、「A表現」は(1)と(2)の項目に分かれます。

また、それぞれの項目にアとイの事項があります。アには、自らつくりだす喜びを味わい、造形的な創造活動の基礎的な資質や能力に関する事項が、イには、アで示した資質や能力を高めるために、必要と考える材料や用具、表現方法、活動する場所などに関する事項が示してあります。



【図画工作科で育成する資質・能力】

低学年（１・２年の目標）

造形への関心・意欲・態度に関する目標	
(1) 表したいこと、つくりたいものを自分の表現方法でつくりだす喜びを味わうようにする。	【実現するために】 <ul style="list-style-type: none">・好きな形や色を自分で選ぶ・思いのままに活動を進める・手に取ったり触ったりして見る・気付いたことや思ったことを友人に話す、友人の話聞く
A 表現に対応する目標	
(2) 材料をもとにした造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。	【実現するために】 <ul style="list-style-type: none">・表現(1)では 身近な材料の形や色などから、楽しい造形活動を思い付き、体全体で並べる、つなぐ、積むなどしながら思いのままに表すことを楽しみ、持てる力を働かせるようにする。・表現(2)では 自分の表したいことを進んで見付け、その思いをふくらませ、形や色、材料を選び、表し方をいろいろ試しながら思いのままに表すことができるようにする。
B 鑑賞に対応する目標	
(3) かいたり、つくったりしたものなどを見ることに関心を持ち、その楽しさを味わうようにする。	【実現するために】 <ul style="list-style-type: none">・手に取ったり触る・感じたことや思ったことを話す・作品を友人に見せる・友人の作品を見る  <p>見ることに関心をもたせる</p>

【図画工作科で育成する資質・能力】

中学年（3・4年の目標）

造形への関心・意欲・態度に関する目標	
(1) 豊かな発想や創造的な技能などを働かせ、その体験を深めることに関心をもつとともに、進んで表現する態度を育てるようにする。	【実現するために】 <ul style="list-style-type: none">・ 児童が発想したこと工夫したことを友人に伝えるなど、人と交流しながら育てる。・ 児童が、材料や用具、表し方を自ら選び、自分で集めた材料を使う。・ 児童一人一人の取組を理解し、共感しながら指導する。
A 表現に対応する目標	
(2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、つくりだす能力、デザインの能力、創造的な工作の能力を伸ばすようにする。	【実現するために】 <p>児童が、よさや美しさなどの感じを考え、形や色などの組合せを工夫するなどしながら、創造的につくりだす能力などを伸ばすようにする。</p> <p>「つくりだす能力」とは</p> <p>児童が自分のよさを生かし、創造力や造形感覚などを十分に働かせ、新しい試みをし表し方を工夫するなど、ものをつくりだす場合に働く創造的な能力</p> <p>「デザインの能力」とは</p> <p>表したいものを見付け、その美しさや用途などを考え、つくりだすための構想力や具体化するために働く造形感覚や創造的な技能などすべてを含めた能力</p> <p>「創造的な工作の能力」とは</p> <p>デザインの能力とともに働き、造形感覚や造形的な技能を生かしながら、材料の形を変えたり加工する際に働き、部分の組立てやその組立て方に働く能力</p>
B 鑑賞に対応する目標	
(3) 自分たちの作品や身近にある作品、材料のよさや美しさなどに関心をもって見るとともに、それらに対する感覚などを高めるようにする。	【実現するために】 <p>児童の見方をもとにして、鑑賞の対象や鑑賞の活動を幅広くとらえる。</p> <p>（自分たちの作品や、親しみある美術作品、造形品など単に作品を見ることだけでなく、表現の過程や形や色、材料など、鑑賞の幅を広げる。）</p>

【図画工作科で育成する資質・能力】

高学年（５・６年の目標）

造形への関心・意欲・態度に関する目標

(1) 造形的な能力を働かせる
とともに、自らつくりだす
喜びを味わい、様々な表し
方や見方に触れ、創造的に
表現する態度を育てるよう
にする。

【実現するために】

- ・児童が、新たな試みに進んで取り組み、想像力を働かせて思いのままに造形活動を進めるようにする。
- ・友人の表現を見たり、美術の様々な表現に触れたりすることを通して、つくりだす喜びや創造的に表現する態度が育つようにする。

A 表現に対応する目標

(2) 材料などの特徴をとらえ、
想像力を働かせて主題の表
し方を構想するとともに、
美しさなどを考え、創造表
現の能力、デザインや創造
的な工作の能力を高めるよ
うにする。

【実現するために】

- ・自らつくりだす喜びを一層味わう
- ・持てる力を十分に働かせる
- ・新たな発想や表し方を試みる
- ・よさや美しさなどを見付ける

総合的に働かせる。

「創造表現の能力」とは

自分の興味・関心を生かし、持てる力を働かせながら、新しい発想を目指して取り組み、その表し方をいろいろ試み、工夫して表す能力

「デザインの能力」とは

つくりたいものを見付け、美しさや用途などを考え、表し方を構想し、必要な材料や用具を探し、造形活動を進める全過程に働き、自分のよさを生かしてものをつくりだす創造的な能力

「創造的な工作の技能」とは

デザインの能力とともに働き、材料の変形や加工、組立てに働く技能や仕組みをつくりだす能力

B 鑑賞に対応する目標

(3) 作品などを進んで鑑賞し、
そのよさや美しさなどを感じ
取り、感性を高めるととも
に、それらを大切にする
ようにする。

【実現するために】

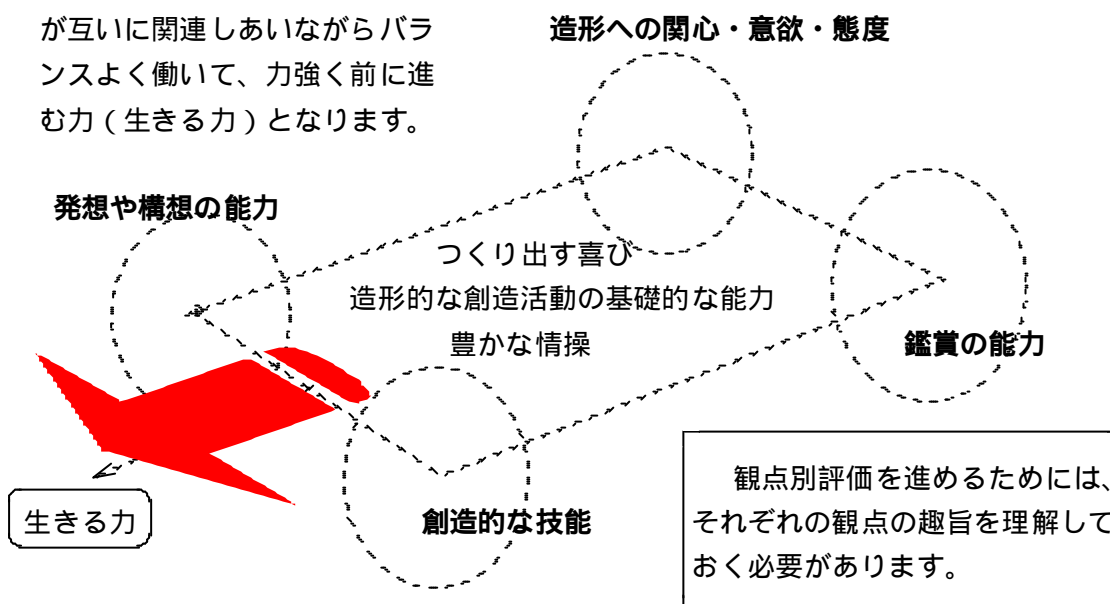
- ・よさや美しさなどについて感じたことや気付いたことなどを話したり、友人の話を聞いたりして、伝え合う機会をもつようにする。
- ・いろいろな感じ方や見方があることに気付き、感じ方や見方を深めるようにする。

3 評価の観点

学習指導要領の実現状況を評価するにあたっては、4つの観点でとらえます。4つの観点は、図画工作科の目標に示される資質や能力と関連しています。

それぞれの観点に示される、資質や能力がバランスよく育つことは、図画工作科の目標を実現することでもあります。

右の図のように4つの駆動輪が互に関連しあいながらバランスよく働いて、力強く前に進む力（生きる力）となります。



造形への関心・意欲・態度

趣旨 自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の創造活動を楽しみ、つくりだす喜びを味わおうとする。

発想や構想の能力

趣旨 感じたことや考えたことなどをもとに、想像力を働かせながら自分らしい発想をし、よさや美しさなどを考え、豊かな表現を構想する。

創造的な技能

趣旨 表したい思いや意図に応じて、創造的な技能を働かせたり、造形感覚を生かしたりしながら表し方を工夫する。

鑑賞の能力

趣旨 造形作品などに関心や親しみをもち、そのよさや美しさなどを感じ取ったり、味わったりする。

実践編

1 授業改善に向けて

第2学年の題材「なにになるのかな」を通して、育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の関連を重視して授業改善を行い、よりきめ細かく個に応じた指導を進めたいと考えた実践例です。

(1) 題材について

この題材は、学習指導要領では、「A表現」の(2)「絵や立体に表したり、つくりたいものや工作に表したりする」にあたるもので、材料から思い付いたものをつくるものです。

そこで、はじめにこの題材から考えられることをいくつかあげてみました。

- ・ 材料を集める段階から楽しむ。
- ・ 材料の色や形、感触などから楽しい思い付きができるよう自然物を使う。
- ・ 児童が独自の発想をし、自信をもって表すことができるようにする。
- ・ 児童が自分で選び、試し表すことができるようにする。

(2) 題材の目標について

学習指導要領や「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所)などを参考に題材の目標を考えました。「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」では、「A表現(2)」の評価規準やその具体例として、「造形への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」の3つの観点があります。また、「B鑑賞(1)」には、「造形への関心・意欲・態度」「鑑賞の能力」の2つの観点があります、これらを合わせて下の4つの目標を設定しました。題材の中で鑑賞の活動も行いたいと考えたからです。

自然物に関心をもち、その面白さを楽しむ。(造形への関心・意欲・態度)
自然物の形や色などの面白さから、つくりたいものを思い付き発想を広げる。(発想や構想の能力)
つくりたいものに合わせて、作り方を試しながらつくる。(創造的な技能)
材料の面白さを感じ取り、作品について話したり、友人の話の聞いたりして楽しく見る。(鑑賞の能力)

にある「その面白さ」は、自然物の形や色、手触り、印象などの特徴を意味し、児童に分かりやすく話せるように、「面白さ」と表現することにしました。

また、「楽しむ」は、様々な材料の形や色などに関心をもって見ることで、今まで気付かなかったことに気付いたり、新しい発見をする楽しさのことです。

にある「つくりたいものを思い付き」は、「つくりたいもの」つまり目当てとなるもので、A表現(2)では重要だといえます。しかし、低学年の児童は、思い付くことが次々に変わっていく傾向があると言われていています。そこで、単なる気まぐれで変わらないよう、はじめのいろいろな思い付きから、気に入った思い付きを児童が自分で選択し「つくりたいもの」を決めます。その「つくりたいもの」に合わせて「発想を広げる」ようにします。つまり「つくりたいもの」の周囲の様子や関連したものなどを考えるといった意味で「発想を広げる」としました。

2 指導計画・評価計画の作成

(1) 指導計画と評価計画の概要を考える

指導と評価は表裏一体の関係にあります。従って、常に題材の目標に立ち返り指導計画と評価計画を考えました。

指導計画については、全体で5時間の設定とし、事前に他教科と関連をもたせながら、児童にとって親しみある近くの海岸で材料集めをする時間を設けました。

また、一人一人の児童が、独自の発想をし自信をもって表すことができるようにして、充実感を味わわせたいため、「発想や構想の能力」を十分発揮できるように考え右のような概要を作成しました。

また、**評価計画**についても指導に合わせてその概要を考え、「発想や構想の能力」に重み付けをしました。

「造形への関心・意欲・態度」は、材料への関心に始まり、活動への意欲、今後への広がりを評価したいと考えました。

題材の各段階において、評価することで、児童の状況をできるだけしっかりと把握し、目標としたことが実現できるよう、個に応じた指導を充実させたいと考えました。

以上のように考えて、実際の指導計画・評価計画を作成しました。

何を指導するか

何を評価するか

指導計画の概要	評価計画の概要
「見立て遊び」	造形への関心・意欲・態度 発想や構想の能力
思い付いた ことの交流	
表したい ことの決定	発想や構想の能力
発 想 を 広 げ る	造形への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能
試 し な が ら 表 す	
作品鑑賞とまとめ	造形への関心・意欲・態度 鑑賞の能力

(2) 指導計画・評価計画の作成

指導計画・評価計画の作成については学習指導案の形で示します。

学習指導案（指導計画・評価計画）

立 小学校
教 諭

1 対象 第2学年 組 男子 名 女子 名 合計 名

2 日時 月 日（曜日）第 校時

3 場所 教室

4 題材 「なにになるかな」

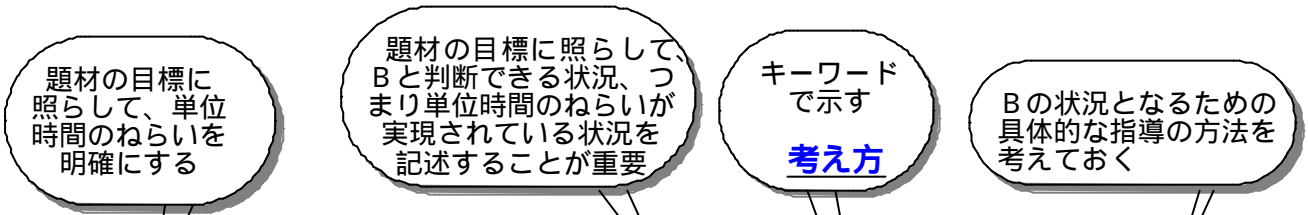
5 題材設定の理由

6 児童観

7 題材の目標

- (1) 自然物に関心をもち、その面白さを楽しむ。 (造形への関心・意欲・態度)
- (2) 自然物の形や色の面白さから、つくりたいものを思い付き発想を広げる。 (発想や構想の能力)
- (3) つくりたいものに合わせて、作り方を試しながらつくる。 (創造的な技能)
- (4) 材料の面白さを感じ取り、作品について話したり、友人の話の聞いたりして楽しく見る。(鑑賞の能力)

8 題材の指導計画（全5時間）



時間	指導過程と指導内容	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
			(観点) 評価規準 評価の方法	十分に満足できると判断される状況 キーワード	努力を要する状況への手立て
1 2	<p>【課題把握】</p> <p>ながめてみよう</p> <p>・「見立て遊び」による様々な発想</p> <p>【課題追究】</p> <p>はなしてみよう</p> <p>・見方や感じ方の交流</p> <p>もういちどながめると</p> <p>・別の見方で様々な発想</p>	<p>・材料集め(事前に)</p> <p>・自分で選んだものが何に見えるか、思い付くものをあげる。</p> <p>・思い付いたことを発表し合い、様々な見方や感じ方があることを知る。</p> <p>・新しい見方や感じ方で発想をさらに広げる。</p>	<p>(関) 自然物の形や色などの面白さを楽しむ。 ワークシート 観察</p> <p>(発) 様々な見方や感じ方で、形や色などの面白さを生かした考えをする。 ワークシート 観察 発表内容</p>	<p>・形や色の面白さを生かして、様々な考えを次々にする。</p>	<p>・なぜ選んだのかを考えさせたり、形や色などに意識が向くような語りかけをする。</p> <p>・様々な方向から観察する方法や発想の仕方について共に考える。</p>

3 4 (本時)	<p style="text-align: center;">これにきめた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくりたいものの決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い付いたものからつくりたいものを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(発)自分のつくりたいものを決める。 ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の材料の面白さも生かして構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共に考える。
	<p style="text-align: center;">さくひんづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の生かし方、組み合わせ方 ・作品づくりについて個別に指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の材料も使って表し方を試しながら、発想を広げてつくる。 ・表し方を試しながら、自分の表し方で作品づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> (関)材料に働きかけ、いろいろな表現を試そうとする。 観察 作品 ワークシート (発)つくりたいものに合わせて、他の材料も使って発想を広げる。 観察 作品 ワークシート (創)表し方を試しながら、自分の表し方でつくる。 観察 作品 ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料に働きかけ、いろいろな表現を試しながら、活動を楽しむ。 ・作り方や手順などの具体的な構想を考える。 ・表し方を試しながら、材料に工夫を加えてつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴について注目させ、表現への生かし方について語りかけるようにし、共に考える。 ・つくりたいものから連想できるものについて共に考える。 ・話し合い、個別指導する。
5	<p>【発展・深化】</p> <p style="text-align: center;">みてたのしむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示 ・鑑賞会 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に題名を付け、気に入った状態で展示する。 ・友人の作品から、材料の面白さや発想のよさを見付けながら楽しく見る。 	<ul style="list-style-type: none"> (関)友達の発想や材料の使い方に関心をもって作品を楽しく見る。 観察 ワークシート (鑑)作品から発想や表し方、材料の生かし方などについて、よさや面白さを見つけ出す。 観察 ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発想や材料の使い方に関心を持ち、これからの表現に生かそうとする態度で作品を見る。 ・作品から発想や表し方、材料の生かし方などについて、よさや面白さに気付き自分の今後の作品づくりに生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着目点を示しながら感じたことを引き出すように語りかけを行う。 ・着目点を示しながら感じたことを引き出すように語りかけを行う。

(関): 造形への関心・意欲・態度 (発): 発想や構想の能力 (創): 創造的な技能 (鑑): 鑑賞の能力

9 本時の目標

- (1) 材料に働きかけ、いろいろな表現を試そうとする。 (造形への関心・意欲・態度)
- (2) つくりたいものに合わせて、他の材料も使って発想を広げる。 (発想や構想の能力)
- (3) 表し方を試しながら、自分の表し方で作る。 (創造的な技能)

10 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等	評価
導入	前時の学習を想起	一斉	・ワークシート や自然物を確認しながら、前時の活動を振り返り「見立て遊び」で思い付いたことを振り返る。		ワークシート 自然物	
	おもいをひろげて さくひんづくり					
	本時のめあての確認	一斉	・本時のめあてを確認し学習課題をつかむ。 ・使いたい材料を、思いのままに使用して、つくりたいものをつくることを理解する。	・つくりたいものをつくりながら、他の材料も使って、さらに発想を広げることもできることを話す。		
	接着剤や道具の使い方		・接着剤や道具の使い方について、注意点を理解する。	・危険な点については、強調して安全な使い方をわかりやすく話す。不安な場合は申し出るように指導する。		
展開	支持体の選択	一斉	・支持体になるものを決める。(ベニヤか段ボール)	・設定時間を考慮し、完成作品が適切な大きさとなるように指導する。	支持体 (ベニヤ・段ボール)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 3つの観点の評価は、2時間の授業内で評価します。 </div> <p>(関)材料に働きかけ、いろいろな表現を試そうとする。 活動の様子・ワークシート</p> <p>(発)つくりたいものに合わせて他の材料も使って発想を広げる。 活動の様子・ワークシート</p> <p>(創)表し方を試しながら、自分の表し方で作る。 活動の様子・作品</p>
	製作の指示	個別	・つくりたいものを接着剤を使って固定しながら製作を進める。 ・つくりたいものに合わせて、発想を広げいろいろな表現を試しながら、自分の表し方で作る。 ・必要に応じて、材料を切ったりちぎったりして作る。	・適切な接着剤の使い方について注意する。 ・うまく接着できないものについては、固定の仕方を共に考える。 ・材料を切る場合は、安全面に注意する。 ・材料の扱いや表現に工夫の見られる児童の様子を、全体に紹介し意欲を喚起する。	接着剤 (木工用) (プラスチック用) 材料 (集めていた自然物・布・糸・毛糸・針金・くぎ・その他使えそうなもの)	
	作品の完成					
まとめ	完成した作品を提出	一斉	・作品への記名		記名用紙	
	まとめ	個別	・完成した作品を見ながら活動を振り返って、ワークシート でまとめをする。	・文章表現の苦手な児童は、個別に指導する。	ワークシート	
	次時の予告	一斉				

(関): 造形への関心・意欲・態度 (発): 発想や構想の能力 (創): 創造的な技能 (鑑): 鑑賞の能力

考え方

「十分満足できると判断されるもの」(A)の考え方

Aの状況を実現していると判断する要点について、「評価規準の作成、評価方法のための参考資料」(国立教育政策研究所)には、次のような説明があります。

「十分満足できると判断されるもの」(A)は、「おおむね満足できると判断されるもの」(B)で働かせる資質・能力を総合的に、関連的に、主体的に、継続的に働かせている状態をいう。	
総合的	子どもたちの生活そのものといわれる遊びのもつ教育的な意義、例えば、楽しさやユーモア、ゆめ、自由な活動、試行、冒険心、共同性などを働かせて、新しいアイデア、表し方の工夫、よさや美しさの意味などを自らつくりだすこと。
関連的	すでにもっている知識や技能を、新しい経験の機会に自分らしい方法で試したり、他の学習で経験した造形体験を生かしたりして、資質や能力を関連的に働かせること。
主体的	表したいことに、自分がつくりつつあるものや表し方に新しいことを考えて付け加えたり、自分の作品や扱う材料・用具に、関心や愛着、こだわりをもち、納得できるように取り組むこと。
継続的	思いをもとに、自分が納得いくように、対象に働きかけたり、働きかけを受けたりしながらもてる力を働かせ、表し方の工夫を続けたり、完成を楽しみにつくり続けたりすること。

3 実践を通して明らかになったこと

(1) 成果

ア 目標の明確化の必要性

題材を通して、「児童に何を指導し、どんな力を付けたいか」は、これまでから考えて指導にあたってきたことです。しかし、この題材を通して「児童に何を指導し、どんな力を付けたいか」といったねらいや目標ができるだけ明確になるよう検討しました。学習指導要領（解説）を当該学年だけ読むのではなく、他学年と比較し、各内容について他学年との違いや関連性について明らかにしました。そうすることで、その学年の指導のポイントとなる事柄が見えてきました。また、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）を参考にし、児童の目標の実現状況をできるだけ具体的にイメージするようにしました。

その結果、指導するポイントが絞れ、評価する内容も明確にすることができました。

イ 指導と評価の一体化の重要性

これまで図画工作科の評価は、結果や作品の出来栄を評価することに陥りがちでした。今回、指導計画を立てながら同時に評価計画を立て、何を指導し何を評価するのかについて検討しました。4つの観点のうち「創造的な技能」の評価については、これまでの経験が生かせると感じましたが、残りの3観点については指導内容を明確にすることで、何時、どのような場面で、何を評価すれば良いのかが明確になりました。そのことは、指導する場合においても個々の児童の状況を把握することにも、役に立つものでした。

その結果、学習の過程を評価することで、最終的にできた作品を通して評価するだけでは十分に見えてこない、児童の資質・能力をとらえることができたと考えます。

(2) 反省点及び今後の課題

ア 評価の場面とその内容が適切であったか、検討する必要があります。そのためには多くの事例を集め、それらを照らし合わせながら公平性、信頼性、客観性、妥当性について分析することが必要と考えられます。

イ 「C」の児童に対する指導の手立てについて、適切であったかどうかを検討し、すべての児童に目標とする資質・能力を身に付けさせる指導の工夫をしなければならぬと考えます。

資料編

学習指導案（指導計画・評価計画）

立 小学校
教 諭

1 対象 第2学年 組 男子 名 女子 名 合計 名

2 日時 月 日（曜日）第 校時

3 場所 教室

4 題材 「なにになるかな」

5 題材設定の理由

6 児童観

7 題材の目標

- (1) 自然物に関心をもち、その面白さを楽しむ。 (造形への関心・意欲・態度)
- (2) 自然物の形や色の面白さから、つくりたいものを思い付き発想を広げる。 (発想や構想の能力)
- (3) つくりたいものに合わせて、作り方を試しながらつくる。 (創造的な技能)
- (4) 材料の面白さを感じ取り、作品について話したり、友人の話の話を聞いたりして楽しく見る。(鑑賞の能力)

8 題材の指導計画（全5時間）

時間	指導課程と指導内容	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
			(観点) 評価規準 評価の方法	十分に満足できると判断される状況 キーワード	努力を要する状況 への手立て
1 2	【課題把握】 ながめてみよう ・「見立て遊び」による様々な発想	・材料集め(事前に) ・自分で選んだものが何に見えるか、思い付くものをあげる。	(関) 自然物の形や色などの面白さを楽しむ。 ワークシート 観察		・なぜ選んだのかを考えさせたり、形や色などに意識が向くような語りかけをする。
	【課題追究】 はなしてみよう ・見方や感じ方の交流	・思い付いたことを発表し合い、様々な見方や感じ方があることを知る。	(発) 様々な見方や感じ方で、形や色などの面白さを生かした考えをする。 ワークシート 観察 発表内容	・形や色の面白さを生かして、様々な考えを次々にする。	・様々な方向から観察する方法や発想の仕方について共に考える。
	もういちどながめると ・別の見方で様々な発想	・新しい見方や感じ方で発想をさらに広げる。			
	これにきめた ・つくりたいものの決定	・思い付いたものからつくりたいものを決める。	・(発) 自分のつくりたいものを決める。 ワークシート	・他の材料の面白さも生かして構想する。	・共に考える。

3 ~ 4 (本時)	さくひんづくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の生かし方、組み合わせ方 ・作品づくりについて個別に指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の材料も使って表し方を試しながら、発想を広げてつくる。 ・表し方を試しながら、自分の表し方で作品づくりを行う。 	<p>(関) 材料に働きかけ、いろいろな表現を試そうとする。 観察 作品 ワークシート</p> <p>(発) つくりたいものに合わせて、他の材料も使って発想を広げる。 観察 作品 ワークシート</p> <p>(創) 表し方を試しながら、自分の表し方でつくる。 観察 作品 ワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料に働きかけ、いろいろな表現を試しながら、活動を楽しむ。 ・作り方や手順などの具体的な構想を考える。 ・表し方を試しながら、材料に工夫を加えてつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴について注目させ、表現への生かし方について語りかけるようにし、共に考える。 ・つくりたいものから連想できるものについて共に考える。 ・話し合い、個別指導する。
5	【発展・深化】 みてたのしむ				
	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示 ・鑑賞会 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に題名を付け、気に入った状態で展示する。 ・友人の作品から、材料の面白さや発想のよさを見付けながら楽しく見る。 	<p>(関) 友達の発想や材料の使い方に関心をもって作品を楽しく見る。 観察 ワークシート</p> <p>(鑑) 作品から発想や表し方、材料の生かし方などについて、よさや面白さを見付け出す。 観察 ワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発想や材料の使い方に関心を持ち、これからの表現に生かそうとする態度で作品を見る。 ・作品から発想や表し方、材料の生かし方などについて、よさや面白さに気付き自分の今後の作品づくりに生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着目点を示しながら感じたことを引き出すように語りかけを行う。 ・着目点を示しながら感じたことを引き出すように語りかけを行う。

(関): 造形への関心・意欲・態度 (発): 発想や構想の能力 (創): 創造的な技能 (鑑): 鑑賞の能力

9 本時の目標

- (1) 材料に働きかけ、いろいろな表現を試そうとする。 (造形への関心・意欲・態度)
- (2) つくりたいものに合わせて、他の材料も使って発想を広げる。 (発想や構想の能力)
- (3) 表し方を試しながら、自分の表し方で作る。 (創造的な技能)

10 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・ 教具等	評価
導入	前時の学習を想起	一斉	・ワークシート や自然物を確認しながら、前時の活動を振り返り「見立て遊び」で思い付いたことを振り返る。		ワークシート 自然物	
	おもいをひろげて さくひんづくり					
	本時のめあての確認	一斉	・本時のめあてを確認し学習課題をつかむ。 ・使いたい材料を、思いのままに使って、つくりたいものをつくることを理解する。	・つくりたいものをつくりながら、他の材料も使って、さらに発想を広げることもできることを話す。		
	接着剤や道具の使い方		・接着剤や道具の使い方について、注意点を理解する。	・危険な点については、強調して安全な使い方をわかりやすく話す。不安な場合は申し出るように指導する。		
展開	支持体の選択	一斉	・支持体になるものを決める。(ベニヤか段ボール)	・設定時間を考慮し、完成作品が適切な大きさとなるように指導する。	支持体 (ベニヤ・段ボール)	(関)材料に働きかけ、いろいろな表現を試そうとする。 活動の様子・ワークシート (発)つくりたいものに合わせて他の材料も使って発想を広げる。 活動の様子・ワークシート (創)表し方を試しながら、自分の表し方で作る。 活動の様子・作品
	製作の指示	個別	・つくりたいものを接着剤を使って固定しながら製作を進める。 ・つくりたいものに合わせて、発想を広げいろいろな表現を試しながら、自分の表し方で作る。 ・必要に応じて、材料を切ったりちぎったりして作る。	・適切な接着剤の使い方について注意する。 ・うまく接着できないものについては、固定の仕方を共に考える。 ・材料を切る場合は、安全面に注意する。 ・材料の扱いや表現に工夫の見られる児童の様子を、全体に紹介し意欲を喚起する。	接着剤 (木工用) (プラスチック用) 材料 (集めていた自然物・布・糸・毛糸・針金・くぎ・その他使えそうなもの)	
	作品の完成					
まとめ	完成した作品を提出	一斉	・作品への記名		記名用紙	
	まとめ 次時の予告	個別 一斉	・完成した作品を見ながら活動を振り返って、ワークシート でまとめをする。	・文章表現の苦手な児童は、個別指導する。	ワークシート	

(関): 造形への関心・意欲・態度 (発): 発想や構想の能力 (創): 創造的な技能 (鑑): 鑑賞の能力

なまえ (_____)

作ひんに、だい名をつけてみよう。

かんそうをまとめよう。

1 たのしかったことは、どんなこと

2 くふうしたのは、どんなこと

3 きょうのじゅぎょうで、あたらしくとり入れたり、思いついたことは、どんなこと

作ひんを見せあおう

なまえ(_____)

ともだちの作ひんから、いいところや、
気に入ったところを見つけよう。

なまえ	いいな、すごいなと思ったところや、気に入ったところ

こんなことができるといいな。

----- ----- -----

児童が海岸から集めてきた材料

- ・気に入った形の流木
- ・気に入った色の貝殻
- ・気に入った小石や木の实など



思いのままにつくってみよう

製作の様子



つくりたいものができてきた

「貝殻の形が面白い
貝殻を組み合わせると
フクロウになる
もう一つ、つくってみると
フクロウの親子みたいだ」



「木の枝でお家をつくってあげました。家族もふえて楽しそう。」



「青い布で
お空にしました。」



展示して、みんなで楽しく見てみよう

「となりにおくと、つながってるみたい」

「この方向から、見てほしいな」

